The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	タイ語における色彩表現の意味的特徴
Author(s)	宮本, マラシー
Citation	大阪大学世界言語研究センター論集. 2010, 2, p. 35-64
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/5564
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

タイ語における色彩表現の意味的特徴

宮 本 マ ラ シ ー
MIYAMOTO Marasri

Abstract:

Semantical Characteristics of Thai Basic Color Terms

The purpose of this paper is to investigate, from a sociolinguistic perspective, the characteristics of color terms in Thai by semantically analyzing the word "*sǐi*(color)" and 11 basic color terms expressed in everyday life. As a result, it has been shown that when these terms are expressed in the form of word repetition, they connote the ambiguity of colors, or emphasize the shade of colors if the previous word is pronounced with a high tone. In addition, when they idiomatically or metaphorically used, they symbolize a particular state of people's physicality, generation, emotion, and ideology as well as ethical view. Most of these expressions have been obviously found in the terms of *sǐi*(color), *dɛɛŋ*(red) and *khǐao*(green) more than in those of *khǎao*(white), *dam* (black), and *lŭaŋ*(yellow), and a few have been found in those of *mûaŋ* (violet), *chomphuu* (pink), *nám-taan*(brown), *nám-ŋən*(blue), *sôm*(orange) and *thao*(grey). This also suggests the different degree of people's interest in each of the colors. As consequences, the cognitional development toward colors and the color awareness of Thai people are inferred by this study.

Keywords：color terms, color cognition, Thai verbal expression, sociolinguistics
キーワード：色彩語，色彩の認識，タイ語表現法，社会言語学

1. はじめに

すべての文化や民族が色に対して同様の感覚を持っているとは限らない。色彩に対してほとんど関心を示していない社会や民族もある。西洋の社会にもあまり色彩に対して関心が示されなかった時代が過去にあった。たとえば、ルネサンス時代を見てみると、当時の美術品は白・黒で出来たものが主流であったし、さらに、当時は、黒が上品、洗練、高貴な色と認識され、逆に色は侮蔑的なものとして見なされていた。しかし、19 世紀のヴァン・ゴッホがいろんな色を使って絵を描いて以来、原色は原始人または子供の表象としてだけではなく、知識人の間でも普通に認識されるようになった [Gage1995]。このように色に対する認識は民族や、属する社会、または時代によって、相違もあれば、変遷もする。タイの社会では、曜日の色[1]が決まっているので、人々は生まれた曜日の色を服装に取り入れたり、ラッキーカラーとしたりするように、昔から日常生活における色に対する気遣い等が感じられる。現在も色の使い方におけるこだわりは様々な機会や場所に表われる。公務員、会社員、そして学生の制服の色、スポーツ大会におけるグループの色、大学や学校の色などはその例の一部に過ぎない。最近では象徴的な色の使い方があった。2006 年から 2008 年にかけて、国全体が黄色で染まったかのように、タイのどこへ行っても黄色の服を着用する人達がいた。2007 年に満 80 歳の誕生日を迎えられた、現国王ラーマ 9 世がお生まれになった月曜日の色が黄色だったため、そのお祝いのシンボルとして多くの人が黄色の服を着用したためである。その後、同様に、王妃の誕生日のお祝いの際には王妃のお生まれになった金曜日の空色、国王の姉の誕生日のお祝いにはお生まれになった火曜日のピンクなども一般的に着用されていた。その様に同色の服を皆が着る (買う) ことで、タイの経済がしばらくの間活気を呈したとさえ言われた。このような現象は、タイ人の色に対する認識がよく反映したものと言えるだろう。

色彩に対する人々の認識は、その属する文化によって共通性もあれば、相違性もあり、それは色彩を表す言葉に顕著に表れる。Berlin B. and Kay P. [1968] は、英語、日本語そしてタイ語も含め世界のさまざまな地域の言語、計 20 ヵ国語の色彩語を調査した結果、次のように主張している。言語によって、色を表す色彩語の数が違っているにもかかわらず、白、黒、赤、緑、黄、青、茶、紫、ピンク、オレンジそしてグレーの中の 2 から 11 の色彩語が言及されていることが一般的である。これらは基本色彩語 (Basic Color Terms) と言われている。世界のすべての言語は白と黒を表す色彩語を持ち、3 つの色彩語を持つ言語では、白と黒に加えて赤を表す色彩語があり、4 つの色彩語がある言語では、白、黒、赤に緑または黄のどちらかが加わり、5 つの色彩語がある言語では白、黒、赤、緑そして黄を表す色彩語、6 つの色彩語を持っている言語では、それらの 5 色に青（blue）が加わり、7

1　生まれた曜日の色はインドから伝わってきたそれぞれの曜日を守っている神格の体の色から来たと言われている。月曜日を守る神の体の色が黄色なので、月曜日の色は黄色となり、同じように、火曜日はピンク、水曜日は緑、木曜日は橙色、金曜日は空色、土曜日は紫、そして、守っている神が太陽である日曜日は赤である [宮本 2009]。

つの色彩語を持っている言語では、7 番目の色は茶、そして、8 つ以上の色彩語を持っている言語には、紫、ピンク、オレンジ、グレー、またはそれらの色が組み合わさった色、というように、それぞれの民族や社会の認識によって段階的に展開されてきた [Berlin B. and Kay P.1968(1999):2-3]。

また、John Lyons [1995] は次のように述べている。すべての言語は同一の色彩語を持っているとは限らないので、ある特定の言語の色彩語は必ずしももう一つの言語の色彩語とその意味する色が一致するとは限らない。彼は次のような現象を例として取り上げている。ラテン語には「茶色」と「灰色」という意味の語彙がなく、ウェールズの文語には英語の green、blue、grey また brown と同じ意味の言葉がないが、green の一部を表す言葉、green の残りの部分、blue の全体、grey の一部を表す言葉、そして grey の残りの部分と brown の一部または全体を表す言葉はある。日本語の「青」は文脈によって、green、blue または dark に訳すことができる。ロシア語には blue という意味の単独の言葉が存在しない。ロシア語の goluboi と sinii は light blue または dark blue と同色の濃淡のようによく訳されるが、ロシア人は別々の色として認識している。ハンガリー語は赤色を表すのに 2 つの言葉がある。ナヴァホ語には brown と grey、また blue と green を同じ言葉で表わしているが、black を表すのに 2 つの語彙を持っている。ニューギニアやオーストラリアの先住民の基本色彩語（Basic Color Terms) は dark と light、または black と white という 2 語しかない。またフィリピンの Hanunoo 語には black 、white 、red そして green に翻訳することができる 4 つの言葉しかない、など [Lyons 1995:202]。さらに、Lyons はある特定の言語の場合は、その言語を母語として用いている人にとっても何が基本の色彩語であるのかを決めることも必ずしも容易なことではないということも指摘している。方言、テキスタイルのデザイナーやペンキの製造者などの業界で用いられる専門の言葉以外に、彼は色彩語をレベル 1 とレベル 2 の 2 つのレベルに分類している。たとえば、英語の場合は、ほとんどの母語話者である大人が、理解し、一般的に使用している、つまり一般的な色として認識されていると想定することができる、black、white、red、green、yellow、blue、brown、purple、pink、orange、そして grey はレベル 1 とし、より限定的な色である、scarlet、mauve、turquoise そして beige はレベル 2 とする。レベル 1 とレベル 2 の相違の中には次のようなことがあげられる。レベル 1 の色彩語は「これは何色ですか」という質問に対して文脈に頼らずに普通の答えとして用いられる言葉であるが、レベル 2 の色彩語は、レベル 1 の色彩語を用いて定義をする場合に多く見られる。たとえば、mauve は pale purple の一種であり、scarlet は a brilliant red(tinged with orange) などのように定義される。

Lyons はさらに、英語では、deep、pale、light、dark、bright、vivid そして brilliant のような基本色彩語を修飾する言葉が多く存在する。それらの言葉は基本の色彩語を修飾することによって、レベル 2 の色彩の定義を可能にするとも指摘し、また、一般的に用いられる英語の形容詞には「色がある (having colour)」、または「色がない (colourless)」といった意味合いのものがないことも指摘している[2]。

なお、Lyons の英語のレベル 1 の 11 語は Berlin B. and Kay P.[1968] によって指定され

た「基本色彩語（Basic Color Terms）」である 11 語と同じであるので、ここでは、Lyons のレベル 1 の色彩語も「基本色彩語（Basic Color Terms）」と呼びたい。

Berlin B. and Kay P. [1968] はタイ語の基本色彩語には、*khǎ・w* white、*dam* black、*dɛ・ŋ* red、*khǐaw* green、*lɤ̌aŋ* yellow、*fá・* blue、*námta・n* brown、*mûaŋʔ* purple、*chomphu・* pink、*sàad* orange[3]、の 10 色があることを指摘した [1968(1999):101] が、タイ人の日常生活においては、英語の grey に当たる灰色を表す「thao」[4]という色彩語も一般的に用いられている。Berlin B. and Kay P. [1968] が指摘した 10 語および thao（灰）は一般のタイ人にとってすぐ思い浮かぶもので、英語や日本語に訳す際にもほとんど支障がないと思われる。しかし、sǐi plàak maŋkhút （マンゴスチンの皮の色） や sǐi puun hɛ̂ɛŋ[5] (乾いた石灰の色) のような色は非常に限定的な色であり、元の色を見たことのない人にとっては、それらの色を理解するには何らかの説明が求められ、やはり、sǐi plàak maŋkhút は紫がかった茶色、sǐi puun hɛ̂ɛŋ は薄いピンクがかったオレンジ色、のような定義が必要となる場合も多くあると想像できる。よって、ここでは、sǐi plàak maŋkhút や sǐi puun hɛ̂ɛŋ のような限定的な色彩語はレベル 2 となる。一方、dam (黒)、khǎao（白）、dɛɛŋ（赤）、khǐao（緑）、lɤ̌aŋ（黄）、nám-ŋən（青）、sôm（オレンジ）、chomphuu（ピンク）、mûaŋ（紫）、nám-taan（茶）、そして thao（灰）の 11 の色彩語はレベル 1 とし、タイの「基本色彩語（Basic Color Terms）」とする。

上記のとおり、ここまで色について文化的、そして言語的にアプローチしている Berlin B. and Kay P.、Gage と Lyons の論説の一部を、そして、タイの言語には英語において言及されている基本色彩語と同じような語彙があることを紹介した。ここからは、タイの色彩語の表現法を通して、それぞれの表現法には、タイ人の色彩全般、また、ある特定の色彩における認識およびそれぞれの色に対する意識はどのように解釈することができるのかという社会言語学的なアプローチを試みたい。そこで、日常生活において、さまざまな場面で表現されている上記の基本色彩語の意味的分析を通して、次の点を明らかにしたい。

1. 基本色彩語（以後色彩語）は単独で色彩そのものを示す場合に使用される以外に、どのような表現の仕方があるのか。たとえば、他の言葉と共起されることにより、

---

2 英語には coloured と colourful という言葉が一般的に使用されるが、この 2 つの言葉については、Lyons は、「色がある (having colour)」と違った意味で用いられるし、また哲学的な論議の場合に「色がある (having colour)」という意味で用いられることもあるが、特別な使い方しかないと主張する [Lyons1995:203]。

3 タイ語の表記は本稿での表記の仕方と違う部分があるが、原文のままに引用している。

4 本稿では、タイ語の発音を表記するために、SIL International Organization により開発された SILManuscript IPA93 の発音フォントを使用している。ローマ字表記の上部に付いている符号は声調を表す。「 ` 」は低平調、「 ˆ 」は下降調、「 ´ 」は高平調、「 ˇ 」は上昇調、そして、ローマ字表記の上部に何の符号もない場合は中平調である。

5 puun hɛ̂ɛŋ (puun= 石灰、hɛ̂ɛŋ ＝乾燥した)：昔、タイ人は puun (石灰) と khamîn (キョウオウ) を混ぜて赤くし、màak（ビンロウジ）を噛むときに phluu（きんま）の葉に塗る [冨田 1990]。その赤い石灰は水分がなくなると、薄いピンクがかったオレンジのような色になると思われる。現在では、ビンロウジときんまを噛む習慣はほとんど見られなくなっているので、若者の間には赤い石灰のことを知らない人も少なくないだろう。

どのような意味合いが生み出されるのか、また表わされている色彩の意味領域はどのように変化すると考えられるのか。

2. 色彩語の表現法と意味を通して、タイ人は色全体、また、それぞれの特定の色に対してどのような認識と意識を持つと解釈することができるのか。

分析の対象とする色彩語は辞典、日常生活における筆者の体験や、タイ人のインフォーマント[6]、そして web 上で見られる基本色彩語の 11 語と sǐi（色の総称）である。なお、「sôm-dɛɛŋ（赤味がかったオレンジ）」、「mûaŋ-nám-ŋən（青紫）」のような基本色彩語の組み合わせによって出来た熟語的な色彩語の表現は対象外とする。

2. 色彩を表すタイ語表現

（1）sǐi（色）

「色」という意味で sǐi と単独で用いられ、そして、たとえば、sǐi dam（黒色）、sǐi khǎao（白色）のように特定の色を表す言葉の前につけて用いられるのが一般的である。以下は sǐi を使った表現の例である。

1/W[7] weelaa pai ŋaan sòp khuan sài sǐi dam [色・ 黒][8] rǎu mâi kɔ̂ sǐi khǎao [色・ 白] mâi khuan sài sûa sǐi sǐi [服・色・色] pai.

お葬式へ行く時には、黒色または白色の服を着ていくべきだ。どちらかと言えば色がある方の（色のある）[9]服を着ていくべきではない。

sǐi dam(黒色) と sǐi khǎao（白色）と表現されているように、黒と白は色を表す言葉として用いられる。一方、例 1 の sǐi は「sûa（服）＋ sǐi sǐi」という反復語として服という言葉に修飾して用いられると、「どちらか言えば色がある方の服」といったように「（具体的に明確な）色の服」より意味が曖昧になり、先行する sǐi dam（黒色）、sǐi khǎao（白色）と対照的に表現される。英語や日本語にもあるように、sǐi（色）が sǐi dam（黒色）や sǐi khǎao（白色）とは対照的に表現されることは他でも見られる。たとえば、fiim sǐi（カラーフィルム）は fiim khǎao dam（白黒フィルム）の対照として、thoorathát sǐi（カラーテレビ）は thoorathát khǎao dam（白黒テレビ）の対照として、そして rûup sǐi（カラー写真）は rûup khǎao dam（白黒写真）の対照として用いられる。

sǐi（色）の明暗や濃淡などの色合いを表すのに、「sǐi...」という形で、修飾語が後続される sǐi の表現には、sǐi ʔɔ̀ɔn（色・弱い / 柔らかい＝薄い色）、sǐi kɛ̀ɛ（色・老いた / 熟した

6 タイ人のインフォーマントは 20 代 -60 代の男女合計 5 名である。
7 数詞の後ろにあるローマ字記号は例文の出所を示す。W は web 上、P は筆者の体験やタイ人のインフォーマント、そして D は『タイ日事典』[冨田竹二郎 1990] から引用されたことを示している。
8 [ ] 内の日本語は下線部の各タイ語の意味である。
9 下線部の日本語訳は、（ ）の前にあるものは直訳であり、（ ）内のものは意訳である。

＝濃い色）、sǐi caaŋ（色・うすれた / あせた＝あせた色、薄い色）、sǐi khêm（色・濃い＝濃くて深みがある色）、sǐi mûut（色・暗い＝暗い色）、sǐi sawàaŋ（色・明るい＝明るい色）、sǐi sòt（色・新鮮な＝鮮やかな色）、sǐi thum（色・くすんだ / 沈んだ / 陰った＝暗くてくすんだ色）、sǐi càt（色・極端な / 厳しい＝きつい色）、sǐi rîap（色・平らな＝落ち着いた色、地味な色）、sǐi cùut（色・味気ない / あっさりとした＝物足りない色）、sǐi mòn（色・憂鬱な / スカッとしない＝グレーがかっているようなくすんだ色、渋い色）等がある。そんな表現を用いた例を見てみよう。

2/W　rɔɔŋ-tháao phâabai sǐi cèp cèp [色・痛い・痛い] sǔai sǔai, maa duu kan.
痛い色（派手な色）の運動靴ですよ、ご覧ください。

3/W　sǐi thum thum [色・くすんだ・くすんだ] yàaŋ sǐi nám-taan mâi khuan chái. thâa ca hâi dii tôŋ pen sǐi sɛ̀ɛp sɛ̀ɛp sòt sòt [色・沁みる・沁みる・新鮮な・新鮮な].....
あなたは茶色のようなくすんだ色（地味な色）は使うべきではない。目に沁みる新鮮な色（派手な色）がいいと思います。

sǐi cèp は目に眩しい強力な色、派手な色として用いられる。同じように、sǐi sɛ̀ɛp sɛ̀ɛp sòt sòt [色・沁みる・沁みる・新鮮な・新鮮な] は言葉通り、見ると目が痛くなるような派手な色として用いられる。他には、たとえば、sǐi rɛɛŋ rɛɛŋ（色･強い･強い＝派手な色）、sǐi rîap rîap（色・平らな・平らな＝地味な色）、sǐi wǎan wǎan（色・甘い・甘い＝爽やかなパステルカラー）などある。これらの修飾語はそれら自体が明確な意味を持っているが、一方、下記のように単体でははっきりとした意味を持っていない言葉が sǐi（色）に後続する例も多く見られる。

4/W　krom wít nɛ́ʔ yàa kin ʔaahǎan sǐi chùutchàat [色・派手さを表す語] kɔ̀ɔn.
科学省はあまり chùutchàat（派手な）色の食べ物は食べないようにとアドバイスする。

5/W　（テレビの画面の色がきつ過ぎて）sǐi cɛ́ɛt [色・派手さを表す語] sɛ̀ɛp taa caŋ, hǎa rûaŋ pai nɔɔn dii kwàa.
cɛ́ɛt（派手な）色は目に沁みるので、もう寝た方がいい。

6/W　yàak thaa lép sǐi cíit cíit [色・派手さを表す語・派手さを表す語].
cíit cíit（派手な）色のマニキュアを塗りたい。

7/W　mék búk pro sǐi cáap cáap [色・派手さを表す語・派手さを表す語].
cáap cáap（派手な）色の Mac Book Pro です。

8/W mii khrai tham rót sǐi prɛ̌ɛn prɛ̌ɛn [色・派手さを表す語・派手さを表す語], léɛo doon bòok mɯ̌an phǒm bâaŋ.
僕は車の色を prɛ̌ɛn（派手）な色にしたので、（タクシーだと思われて）呼び止められたことがある。僕と同じ経験を持った人はいませんか。

例 4-8 の chùutchàat、cɛ́ɛt、cíit cíit、cáap cáap、prɛ̌ɛn prɛ̌ɛn は sǐi（色）に後続すると、色が派手であることが表わされるので、「派手な色」と日本語に訳せる。

sǐi（色）は、反復語の形で表現すると、例 1 ですでに触れたように、色の表す意味が曖昧になるが、「***síi*** sǐi」のように先行語が高平調となるなら、「派手な色」となり、意味合が強調されることになる。

9/W thaanii yɛ́ɛm khon mii sǐi [人・ある・色] bongkaan sǎŋhǎan sǒnthíʔ.
ターニー（警察大将の名前）はソンティ（新聞記者の名前）の暗殺を指揮したのは色のある人であることを少し漏らした。

10/W càp phraan klùm khon mii sǐi [人・ある・色] lâa sàt pàa....bɔ̀ɔk wâa ton pen thâʔhǎan phrɔ́ɔm kàp pə̀ət sɯ̂a hâi duu ʔaawút pɯɯn.
獣を狩猟していた色のある人を逮捕した。、、、、服を肌けて銃を見せながら自分は軍人だと言った。

11/W thammai khon mii sǐi [人・ある・色] chɔ̂ɔp bèŋ sài khon mâi mii sǐi.
なぜ色のある人は色のない人に対してよく威張るのだろう。

khon mii sǐi（色のある人）は、軍人や警察を表す言葉として用いられる。ここでの色とは軍人と警察の制服の色のことである。また、軍人の中では空軍と海軍よりも多くの場合は陸軍のことである。具体的な色で言えば、警察の制服の色である sǐi kaakii と呼ばれている茶色がかったカーキ色と、陸軍の制服の色である sǐi khǐao と呼ばれている緑っぽいカーキ色である。khon mii sǐi（色のある人）という表現だけでは警察を示すのか、陸軍を示すのかは明らかではないが、多くの場合は文脈から判断できる。例 9 で言及されている事件は戦争の武器が使われたと連日報道されていたことから、「khon mii sǐi」は軍人であると一般のタイ人は理解している。例 10 は「自分は軍人であると言った」という後続の文章から判断出来る。そして、例 11 は、一般の市民にとって不満の対象は日常的に接触が多い警察の方なので、「khon mii sǐi」は警察だと思われる。このような表現は、警察や軍人が行う良い行為よりも、不正や違法な行為と関わっている場合に見られる。

12/W pen sŏŋkraan thîi rái sĭi-săn [なし・色] sáʔ ciŋ ciŋ.
まったく色のない（面白くない）ソングラーンの祭り[10]だった。

13/W dichán doon pâai sĭi [塗る・色] wâa mâi dii, dooi thîi mâi pen khwaam-ciŋ ləəi sák nít diao.
私は無実にもかかわらず悪いと色を塗りつけられた（悪いと決めつけられた）。

例 12 の sĭi は sĭi-săn という形で用いられることが普通である。ここでの săn は具体的な意味がないが、sĭi の双声語だと思われる。rái sĭi-săn（色がない）は「面白くない」という意味で用いられる。そして、例 13 の「色を塗りつける」は「悪いと決めつける」といった意味合いで用いられている。

(2) dam（黒）

dam（黒）には、名詞が後続して、より限定的な色彩語となる表現はないが、dam tàp-pèt（黒・肝臓・アヒル＝アヒルの肝臓のように黒い）といった表現はある。この表現は、アヒルの肝臓は黒いがとても美味しいのと同じように、肌は黒くても、女性として魅力があるという意味合いで用いられる。そこには、肌が黒いことは望ましくないと暗示されている。類似の表現が例 23 にも見られる。

dam（黒）は他の色と違い、ʔɔ̀ɔn（弱い＝薄い）、khêm（濃い）、mòn（くすんだ）などの修飾語を伴って黒の明暗や濃淡などの色合いを表す表現がないが、その黒さを強調する下記のような表現はある。

14/W nám khlɔɔŋ mii sĭi dam pŭu [黒い・黒さを強調する語].
川の中の水は dam pŭu（真っ黒）だ。

15/W ʔarai kô duu dii pai mòt, sĭa yàaŋ diao khôɔ-sɔ̀ɔk lɛ́ hŭa-khào dam pĭi [黒い・黒さを強調する語] chiao.
どこをみてもきれいですが、肘と膝が dam pĭi（真っ黒）であるのは残念だ。

16/W rao chái kuan-ʔim thaa kɔ̀ɔn nɔɔn, mûa-kɔ̀ɔn rákrɛ́ɛ rao dam mítmĭi [黒い・黒さを強調する語], hĕn phŏn ləəi.
昔、私の脇は dam mítmĭi（真っ黒）でしたが、グアンイムというクリームを使ったところ、よく効きましたよ。

17/W thammai mĭi phɛɛndâa thŭŋ taa dam pítpĭi [黒い・黒さを強調する語].
なぜパンダの目は dam pítpĭi（真っ黒）なのでしょう。

10 ソングラーンは 4 月 13 日のタイの旧正月のことであり、タイでは一年中で最も暑い季節であるため、13 日～ 15 日は水を掛け合って新年を祝う。しかし、2009 年のソングラーンはバンコックで赤いシャツを着た人たちによる大規模な暴動が起こったため、時期がずれる事態となり、一般の市民にとっては迷惑なこととなった。

18/P phûu-chaai sìi hâa khon khùt thanŏn kram dɛ̀ɛt tâŋtɛ̀ɛ cháo yan khâm, tua dam máʔmîam [黒い・黒さを強調する語].
4-5 人の男たちは日差しを浴びながら朝から晩まで道路を掘っていたので、体は dam máʔmîam（真っ黒）になっていた。

19/P dèk líaŋ khwaai nai thûŋ tua dam mîam [黒い・黒さを強調する語] mɯ̆an khwaai thîi líaŋ ləəi.
野原で水牛の番をしている子供はその水牛と同じように体が dam mîam（真っ黒）だ。

20/W mii ʔarai baaŋ yàaŋ sɔ̂ɔn yùu nai duaŋ taa dam khlàp [黒い・黒さを強調する語] khûu nán.
その dam khlàp（真っ黒）の目には何か隠されている。

pɯ̆ɯ、pǐi、pítpǐi、mítmǐi、mîam、máʔmîam、そして khlàp は黒さを強調するために用いられ、日本語には、「真っ黒」と訳せるだろう。上記の例以外にも、dam pɯ̂t と dam pɯ́tpɯ̆ɯ というものも見られる。

dam（黒）は下記の例 21-22 のように反復表現としても用いられる。

21/W pen tùm dam dam [黒い・黒い] bon phǐu-nǎŋ troŋ bɔɔriween klâi nâa-ʔòk khâaŋ khwǎa khâ.
右側の胸の近くの皮膚に黒っぽい粒々ができた。

22/W phǒm ***dám*** dam [黒さを強調する語・黒い], ca plìan sǐi phǒm dii mái nîa.
私の髪の毛は真っ黒ですが、色を変えたらどう思いますか。

例 21 が、dam dam と反復されることで、日本語の「黒っぽい」と訳すことができるように、黒さが曖昧に表現されるのに対し、例 22 のように、反復語にされるが、先行語の声調を高平調にすると、「真っ黒」の意味となり黒さが強調される。

23/W thɯ̆ŋ tua ca dam [体・助動詞・黒い] tɛ̀ɛ kháo kɔ̂ pen khon nâa-rák ná.
身体は黒くても、彼は性格が可愛いですよ。

24/W mɛɛo dam [猫・黒い] pen sǎnyalák khɔ̌ɔŋ khwaam-nâa-klua. khon thai samǎi kɔ̀ɔn thɯ̆ɯ kan waa hàak mɛɛo dam [猫・黒い] khâam looŋ sòp, sòp nán ca hían nák, rɯ̆ɯ hàak dəən tàt nâa ca chôok ráai.
黒猫は恐怖のシンボルである。昔、タイ人は、黒猫が棺桶を跨ぐと、亡くなった人の霊は強くなるし、また誰かの前を横切ると、その人は悪運に見舞われると信じていた。

例 23 の「thǎŋ tua ca dam tɛ̀ɛ kháo kɔ̂ pen khon nâa-rák ná.（体は黒くても、彼は性格が可愛いですよ）」は、dam tàp-pèt（肌は黒いが、女性としては魅力がある）と同様に、「性格が可愛い」を「肌が黒い」と対照的に用いられているので、肌が黒いことは望ましくないということを含意している表現である。また、例 24 で明らかなように、「黒い猫」は縁起の悪い猫とされている。

下記の例 25-27 では、dam（黒）は黒という色そのものの名詞ではなく、ある状態や性質を表す形容詞として用いられている。

25/W rûaŋ ciŋ thîi yaŋ khoŋ dam mûut [黒い・暗い], ...
まだ事実は黒くて暗い (明らかではない) 話ですが、、、、

26/W bai nâa ŋaam ŋaam, mâi nâa cai dam [心・黒い] lɔ̀ɔi kɛ̂ɛo-taa.
顔は美しいのに、なぜ心は黒い（残酷である）のでしょうか。

27/W tàaŋ khon tàaŋ nâa dam khrâmkhrîat [顔・黒い・没頭する], siirîat kàp kaan sɔ̀ɔp khráŋ níi kan yài.
皆没頭した黒い顔（深刻な表情）をして一生懸命試験勉強をしている。

例 25 の「黒い」は明らかでないさま、例 26 の「心は黒い」は性格が残酷であること、そして、例 27 はストレスで表情が暗いという意味合いで用いられているように、黒色はマイナスのイメージで用いられることが多い。

(3) khǎao（白）

dam（黒）同様に、khǎao（白）の場合も、名詞が後続して、より限定的な色彩語となる表現はない。それ以外の表現としては以下のようなものがある。

28/W [商品広告] khritsatân sǐi khǎao sǎi [白い・透明である] tɔ̂ɔnráp nâa rɔ́ɔn.
khǎao sǎi（透き通った白色）のクリスタルで、夏を迎える。

29/W thûai kɛ̂ɛo sǐi khǎao mòn [白い・くすんだ] bai nán thùuk thíŋ wái con fùn kɔ̀ʔ krə̀ʔkraŋ.
khǎao mòn（くすんだ白色）のコップは、ほこりまみれにほったらかされていた。

30/W thammai phǐu-nǎŋ sùan thîi pìt phláatsatə̂ə cuŋ khǎao sîit [白い・青ざめた].
なぜバンドエイドが貼られていた部分の皮膚は khǎao sîit（蒼白く）なるのだろう。

例 28-30 に示される khǎao(白) に後続する言葉は khǎao(白) の明暗などの色合いを表す言葉である。それ以外には、khǎao nuan （白い・なめらかな＝なめらかで白い＜肌＞）も見られる。

31/W mɛɛo khǎao manii pen mɛɛo thîi sǔai-ŋaam mâak,...phan théɛ tôŋ mii sǐi khǎao plɔ̀ɔt [白い・すべて～ばかりの] tháŋ tua.
カーオマニー という猫はとてもきれいな猫であり、純血種は体全体が khǎao plɔ̀ɔt（真っ白）でないといけない。

32/W mâi dâi cəə sɔ̌ɔŋ pii thâonán, phǒm khǎao phlooŋ [白い・明か明かと] pai tháŋ hǔa.
会っていないのは二年だけなのに、髪の毛が（すべて）khǎao phlooŋ（真っ白）だった。

33/W ʔâm sòt-sǎi, nâa-rák mâak, pə̀ət lài khǎao phɔ̀ŋ [白い・汚れのない].
アム（女優）は爽やかで、とても可愛くて、khǎao phɔ̀ŋ（真っ白）な肩を露わにしている。

34/W yím hěn fan khǎao rôo [白い・はっきりと見える] maa tɛ̀ɛ klai.
khǎao rôo（真っ白）な歯を見せて微笑んでいるのが、遠いところからでもはっきり見える。

35/W nɔ́ɔŋ ceen sǎao sǎi taa too khǎao cúaʔ [白い・白さを強調する語].
ジェーンちゃん（女性の名前）は純粋な女の子、目が大きくて、肌が khǎao cúaʔ（真っ白）だ。

例 31-35 に見られる「khǎao....」はすべてが日本語の「真っ白」に訳せるように、白さが強調されている。それ以外にも、khǎao wɔ̂ɔk（白い・猿＝パウダーを真っ白に塗りたくった顔の白さ）という表現も見られる。

36/W pen tùm sǎi sǎi sǐi khǎao khǎao [白い・白い], pen maa sìp pɛɛ̀t pii léɛo khâ.
透明で白っぽい出来物ができてからもう 18 年経っています。

37/P phɔ̂ɔ-mɛ̂ɛ tua dám dam, thammai lûuk tua ***kháao*** khǎao [白さを強調する語・白い].
親は真っ黒なのに、なぜ子供は真っ白なのだ。

例 36-37 は反復語の表現であるが、アクセントの違いで、例 36 は「白っぽい」となるのに対し、例 37 は「真っ白」と白さが強調される表現となる。

38/W cǎo-sǎao chɔ̂ɔp sǔam chút tɛ̀ŋŋaan sǐi khǎao [色・白い] phrɔ́ʔ thɯ̌ɯ pen sǐi bɔɔrisùt [色・純粋である].
白色は純粋の色だと思われているので、花嫁は白色のウェディングドレスを着ることを好む。

39/W wai dèk pen wai thîi saʔàat bɔɔrisùt mɯ̌an phâa khǎao [清潔である・純粋である・～のような・布・白い].
子供は白い布のように、清潔で純粋である。

40/W kə̀ət ʔarai khûn kàp prathêet thai thammai khǎao pen dam, dam pen khǎao [白・である・黒・黒・である・白].
タイでは何が起こっているのだろう。白が黒になり、黒は白になっている。

41/D nísǎi khɔ̌ɔŋ khon tháŋ sɔ̌ɔŋ tàaŋ-kan mǎan sǐi khǎao kàp sǐi dam [相違がある・～のように・色・白・～と～・色・黒].
二人の性格は白色と黒色が違うように全然違う。

khǎao（白）は、例 38-39 で表現されているように、汚れのない、純粋さの比喩として用いられることが多い。例 40-41 では、物事の性質に極端な違いのあることを白色と黒色の違いと比喩されている。例 40 では、白は「正義」、黒は「悪」という意味合いで用いられている。

42/W mɛ́ɛo taa khǎao [目・白い], məən ráp tháa kasìt.
メーオ (タクシン元首相のあだ名）は目が白い（臆病）。カシット（外務大臣）の挑戦に応じない。

43/W chán kô yók thoŋ khǎao [上げる・旗・白い] náʔ, yók thoŋ khǎao nai thǎanáʔ thîi sǔai sûu chii chii tháŋ lǎai mâi dâi.
私も白旗を上げる（降伏する）。彼女たちの美しさには敵わないので白旗を上げるの。

例 42-43 では、khǎao（白）は色そのものとして示される表現ではない。例 42 では、「taa（目）」と共起して、「taa khǎao（目が白い）」となり、「臆病」という意味で用いられる。例 43 では、thoŋ（旗）と共起し、「thoŋ khǎao（白旗）」となって、「降伏」のシンボルという意味で用いられる。

(4) dɛɛŋ（赤）

dɛɛŋ（赤）には、名詞 (句) が後続し、dɛɛŋ châat（朱の赤）、dɛɛŋ phlɔ̀ɔŋ （炎の赤）、dɛɛŋ lûat-nók（鳥の血の赤）、dɛɛŋ lûat-mǔu（豚の血の赤）という限定的な赤色を表す表現が見られる。

dɛɛŋ（赤）の明暗や濃淡などの色合いを表すのに、dɛɛŋ ʔɔ̀ɔn（赤・柔らかい / 弱い＝薄い赤）、dɛɛŋ kɛ̀ɛ（赤・老いた / 熟した＝濃い赤）、dɛɛŋ khêm（赤・濃い＝濃くて深みのある赤）、dɛɛŋ sòt（赤・新鮮な＝鮮やかな赤）があるが、それ以外にも、下記のような表現がある。

44/W chɔ̂ɔp phâap phûuyǐŋ phǐu sǐi dɛɛŋ rûa-rûa [赤い・淡い].
淡い赤（ほんのりと赤色）の肌の女性の写真が好きです。

45/W mɯ̂a thùuk thǎam thɯ̌ŋ phûu-chaai thîi khuaŋ ʔɔ̀ɔm nâa dɛɛŋ kàm [赤い・赤さを強調する語].
付き合っている彼氏のことを聞かれると、オーム（女性の名前）の顔は dɛɛŋ kàm（真っ赤）になった。

46/P ca thaa lép sǐi dɛɛŋ cɛ́ɛt [赤い・赤さを強調する語] yaŋŋíi pai sɔ̀ɔp sǎmphâat rɯ̌ɯ.
dɛɛŋ cɛ́ɛt（真っ赤な）マニキュアを塗ったまま面接試験を受けに行くの？

47/W cîŋcòk pralàat, sǐi dɛɛŋ pɛ́ɛt [赤い・赤さを強調する語] tháŋ tua.
変わったヤモリだ。体全体が dɛɛŋ pɛ́ɛt（真っ赤）だ。

48/W prá-ʔaathít yaam cháo sǐi dɛɛŋ câa [赤い・赤さを強調する語] sǔaimâak, thàai rûup wái lǎai bai.
朝日が dɛɛŋ câa（真っ赤）で、とてもきれいだった。たくさん写真を撮っておいた。

49/W talàat hûn pùan, tua dɛɛŋ thɯ̀ak [赤い・赤さを強調する語].
証券取引市場が dɛɛŋ thɯ̀ak（真っ赤）[11]で、混乱している。

50/W fai lúk mâi bâan dɛɛŋ chǎan [赤い・赤さを強調する語].
火事が発生して家を dɛɛŋ chǎan（真っ赤）に燃やしている。

例 44 の dɛɛŋ rɯ̂a-rɯ̂a は頬、唇などが本来もっているほんのりとした赤を表す場合に用いられ、きれいで、健康的という評価も含意されている。例 45-50 はすべて「真っ赤」と日本語に訳すことができるように、赤さが強調される表現である。それらの例で示されているもの以外にもよく見られる「真っ赤」の表現には、dɛɛŋ cɛ̌ɛ、dɛɛŋ chɛ́ɛt、dɛɛŋ prɛ́ɛt というものがある。

51/W phǒm mii ʔaakaan khan taam tua, mii phɯ̀ɯn dɛɛŋ dɛɛŋ [赤い・赤い] thîi khɛ̂ɛn.
僕は全身痒くて、腕には赤っぽい色の湿疹があります。

52/W sɯ̂a sǐi ***dɛ́ɛŋ*** dɛɛŋ [赤さを強調する語・赤い], tɛ̀ɛ bɛ̀ɛp mâi yûŋ-yâak.
真っ赤な服ですが、デザインはシンプルです。

例 51-52 は反復表現として用いられる。例 51 は日本語の「赤っぽい」と訳すことができるように、赤さが曖昧になる。それに対し、例 52 は、先行語の声調を高平調にすると、「真っ赤」となり、赤さが強調されている。

53/W nák-rian yîipùn yɯ̀ɯn khɔ̌ɔn, nâa dɛɛŋ [顔・赤].
日本人の学生は照れて、顔が赤くなっている。

11 dɛɛŋ thɯ̀ak ＝株価を表示しているボード一面が赤い文字（マイナスの数字）で埋まっている様子。

54/W phɔ̂ɔ kròot, nâa dɛɛŋ [顔・赤い].
父は怒って、顔が赤くなった。

55/W dɛɛŋ [赤] wǎŋ lóm ʔamnâat rát.
赤（共産主義者）は政府を倒そうと図り事をしている。

56/W sǒom dɛɛŋ [朝鮮ニンジン・赤い] yôok khlɔɔn khwaam pen nák sǎntiphâap khɔ̌ɔŋ yîipùn.
赤い朝鮮ニンジン（北朝鮮）は平和主義者である日本を揺り動かす（脅かす）。

57/W chaao khoorâat ruam phalaŋ khâo cɛ̂ɛŋ càp hǎaŋ dɛɛŋ [尻尾・赤い] thɔ̀ɔi.
コーラートの市民は一丸となって野蛮な赤い尻尾（赤シャツの人たち）を警察に届け出た。

58/P sǐa cai dûai thîi thəə mâi châi hǔa dɛɛŋ [頭･赤い], thâa pen hǔa dɛɛŋ [頭･赤い] la kô mii khon khâo maa pen phûan kàp thəə ʔeeŋ lɛ̀ʔ.
あなたは赤い頭（西洋人）ではないので残念ですね。あなたが赤い頭（西洋人）だったら、ほっといても友達が出来るのよ。

59/P thon dâi mái thâa mii lûuk pen dèk hǔa dɛɛŋ [子供･頭･赤い] lɛ́ɛo doon phûan phûan raŋkɛɛ nâʔ
赤い頭の子供（西洋人との間の混血の子供）ができたら、その子が友達に虐められることに我慢できますか。

例 53-54、そして、例 56-59 の dɛɛŋ（赤）は修飾語として、赤色から連想するある特定の状態や人間を示す表現として用いられている。「nâa dɛɛŋ（顔が赤い）」は、酔う、または恥ずかしい、怒るという感情に言及するときに用いられる表現である。名詞として用いられる例 55、そして、例 56-59 はある特定の国、集団、政治的な理念、または身体的な特徴を持っている人たちを表す。例 55-56 の dɛɛŋ（赤）は、昔から悪役とされていた共産主義を連想させる。例 57 の hǎaŋ dɛɛŋ（赤い尻尾）は、2007 年に結成された「nɛɛo-rûam prachaathíppatai khàp-lâi phadètkaan (Democratic Alliance Against Dictatorship, DAAD)」という政治的活動団体であり、タクシン元首相の不正に抗議をする黄色いシャツを着た人たちに対抗して、赤いシャツを着てタクシン元首相を支持する行動をとっていた人たちのことを指す、侮蔑の表現である。例 58 の hǔa dɛɛŋ（赤い頭）は西洋人の呼び名の一つであり、そこには不満や批判的な感情がある。また、例 59 の dèk hǔa dɛɛŋ（赤い頭の子供）は西洋人との間の混血の子供を差別的に呼ぶ言葉である。

60/D thâa khwaam láp dɛɛŋ khûn [赤い・～なる] maa, lɛ́ɛo ca ʔao nâa pai wái thîi nǎi.
もし秘密が赤くなった（ばれた）らどこへ顔向けができようか。

61/W rao tôŋ phûut kan hâi hěn dam hěn dɛɛŋ [見える・黒・見える・赤].
私たちは黒・赤が見える（はっきり決着する）ように話し合わないといけない。

62/W kantanaa choo phǒn-ŋaan chín boo dɛɛŋ [リボン・赤い], ʔanimeechân sǎam míʔtìʔ.
カンタナー（映画のプロデューサー）は赤いリボン（最高級）の作品である 3D アニメーションを公開した。

63/W pɛ̀ɛt hǔa-còok nɔɔn khúk, kin khâao dɛɛŋ [食べる・ご飯・赤] tɔ̀ɔ.
8 人のリーダー達は刑務所で寝て、続けて赤いご飯を食べる（玄米を食べる）。

64/W kɔ̀ɔt ʔaakaan loŋ dɛɛŋ [降りる・赤], rɔɔ mâi wǎi, tôŋ maa rabaai nai blɔ́k khɔ̌ɔŋ tua ʔeeŋ.
禁断症状が出て（我慢できなくなって）、自分のブログで発散しなければならなかった。

例 60-64 の dɛɛŋ（赤い）は赤色そのものではなく、単独で、または他の言葉と共起し、ある特定の状態や性質を表す。例 60 では、動詞として用いられ、「ばれる」という意味で用いられる。例 61 の hěn dam hěn dɛɛŋ [見える・黒・見える・赤] は「よいのか悪いのか、また間違いなのか正しいのかがはっきりとする状態」を意味するように、「悪い」や「間違い」を含意している黒との対照表現として用いられる。一方、例 62 の boo dɛɛŋ [リボン・赤い] は優秀や優等を含意する。例 63 の kin khâao dɛɛŋ [食べる・ご飯・赤] の khâao dɛɛŋ は玄米のことを指す。昔、刑務所に入った人には、白米ではなく、玄米を食べさせた。転じて現在では、kin khâao dɛɛŋ は刑務所に入るという意味で用いられる。また、例 64 の loŋ dɛɛŋ [降りる・赤] は、元来、血便の下痢をするといったアヘンや麻薬の禁断症状について言う表現であるが、現在では我慢できなくなったことを意味する表現としても用いられる。

(5) khǐao（緑）

khǐao（緑）には、khǐao bai mái（樹葉緑）、khǐao tɔɔŋ ʔɔ̀ɔn（バナナの若葉緑）、khǐao khîi máa（馬糞の緑）、khǐao hǔa pèt（アヒルの頭の緑）、khǐao yòk（ヒスイの緑）のように、名詞（句）が後続し限定された緑を表す色彩語が見られる。

khǐao（緑）の濃淡などの色合いを表すのに、khǐao sòt（緑・新鮮＝新鮮な緑、鮮やかな緑）、khǐao mòn（緑・くすんだ＝くすんだ緑）、khǐao ʔɔ̀ɔn（緑・弱い / 柔らかい＝薄緑）、khǐao kɛ̀ɛ（緑・老いた / 熟した＝濃い緑）、khǐao khêm（緑・濃い＝濃くて深みがある緑）がある。また、khǐao（緑）を修飾し緑の状態を強調する語も下記の例のように多く見られる。

65/P lûak mâak, mɛ̂ɛ-kháa mɔɔŋ taa khǐao pât [目・緑・緑を強調する語].
あまり選びすぎたので、店のおばさんは真緑の目（激怒の眼）をしてにらみつけた。

66/W carakhêe phûak níi khoŋ mâi dâi ʔàap náam maa naan, takhrâi khûn khǐao ʔǔu [緑・緑を強調する語] ləəi.
これらのワニはおそらく長い間お風呂に入れてもらっていない。体中に khǐao ʔǔu（真緑）の苔がいっぱい生えている。

67/W nám phàk sǐi khǐao pǐi [緑・緑を強調する語], thâathaaŋ khǒm.
野菜ジュースは khǐao pǐi（真緑色）なので、苦そう。

68/P kamlaŋ ca thaan yùu lɛ́ɛo, hěn nɔ̌ɔn tua khǐao ʔǐi [緑・緑を強調する語] kadúp kadúp yùu nai phàk, ləəi hǎai yàak thanthii.
食べようとしたんですが、khǐao ʔǐi（真緑）の虫が野菜の中で動いているのを見たら、食べる気がなくなった。

例 65-68 の khǐao pât、khǐao ʔǔu、khǐao pǐi、khǐao ʔǐi 以外に、khǐao cǐi、khǐao prɛ̌ɛ、khǐao prɛ̌n、そして khǐao prɛ́ɛt という表現も見られる。すべては日本語に「真緑」と訳せるが、色の濃さが強調される表現である。

また khǐao にも、khǐao khǐao（緑っぽい）と ***khíao*** khǐao（真緑）という反復語表現がある。前者は緑の曖昧さを表現し、後者は緑の濃さを強調する。

khǐao は修飾語として用いられる。下記の例で示されているように、先行名詞の性質、状態、表情、そして感情を比喩的に表現する。

69/P dèk rûn mài nîi mâi mii khrai rúucàk phim khǐao [印刷・緑] kan lɛ́ɛo.
今の若者でブループリントを知っている人は誰もいない。

70/D kháo thùuk sɔ́ɔm nâa khǐao taa khǐao [顔・緑・目・緑] pai mòt.
彼は袋だたきにあって顔と目が緑（顔中青あざだらけ）になってしまった。

71/D nǎao con pàak khǐao [口・緑].
口が緑（唇が青）になるほど寒い。

72/D kháo khûn sǐaŋ khǐao [声・緑] kàp chán.
あの人は緑声（怒気を帯びた声）を私にぶつけた。

例 69-72 で表現されているように khǐao は日本語では「青」と訳すことができる。

73/W naayók fai khǐao [信号・緑] FBI rûam-mǔu tamrùat thai khlia pom kharadiin.
首相はキャラダイン（アメリカの俳優）事件をタイの警察と協力して解明したいという FBI の要求に緑の信号を送った（自由にやらせた）。

74/W khun-naai khon nán maa tòk khǐao [釣る・緑] thîi mùu-bâan khɔ̌ɔŋ rao ʔìik lɛ́ɛo.
その夫人はまた我々の村に緑を釣り（若い女性を騙し）にきている。

75/W kaan khoosanaa chuan-chûa thîi wâa thâa lûak rátthabaan klàp khâo maa mài lɛ́ɛo, ʔìik sìi pii khâaŋ nâa khon con kɔ̂ ca mòt pai càak prathêet thai sûŋ rîak ŋâai ŋâai wâa rátthabaan tòk khǐao [釣る・緑] dooi kaan wàan ŋóppramaan loŋ pai nai phúunthîi yàaŋ mâak.
ある地域に大量のお金をばら撒く方法を使い、今の政府が再選されたら４年後にはタイでは貧しい人がいなくなる、と甘い言葉で（投票を）誘うことは、言うなれば、政府は緑を釣って（莫大なお金をばら撒けば、また政権を握れると期待して）いるということである。

例 73-75 では、khǐao（緑）は緑色そのものを表すのではなく、他の言葉と共起し、ある特定の行動を表す表現となる。例 73 の fai khǐao（青信号）は動詞として、妨げずに自由に行かせる（やらせる）という意味合いで用いられる。例 74 の tòk khǐao（釣る･緑）は、北部タイの村にいる未成年の女の子の親に金銭を渡して、その娘をバンコクや外国で売春をさせることを意味しているが、最近では、後の利益のためにある投資をしておくという場合にも用いられるようになっている例 75 のように意味の展開がしばしば見られる。

(6) lǔaŋ（黄）

lǔaŋ（黄）には、lǔaŋ dɔ̀ɔk-bùap（ヘチマの黄色）、lǔaŋ dɔ̀ɔk-thaan-tawan（向日葵花の黄色）、lǔaŋ lûuk-cíap（ひよこの黄色）といったように、名詞（句）が後続すると、限定的な黄色を表す表現となる。

lǔaŋ（黄）の濃淡を表す lǔaŋ ʔɔ̀ɔn（黄・柔らかい / 弱い＝薄い黄）、と lǔaŋ kɛ̀ɛ（黄・老いた / 熟した＝濃い黄）という表現がある。また、日本語の、「真黄」にあたる黄色さを強調するのには、lǔaŋ câa と lǔaŋ ʔɔ̌ɔi という表現がある。

76/W pen náŋsǔu thîi hǎa yâak, kradàat kào krɔ̀ɔp lǔaŋ ʔɔ̌ɔi [黄・黄色の状態を強調する語] ləəi.
その本はなかなか手に入らなかった。紙がぱりぱりで lǔaŋ ʔɔ̌ɔi（真っ黄色）です。

反復表現としては、lǔaŋ lǔaŋ（黄色っぽい）と ***lǘaŋ*** lǔaŋ（真黄）がある。前者は黄を曖昧に表現し、後者は黄色の色合いを強調する。

77/P mɛ̂ɛ dii-cai con nám-taa lǎi mûa hěn lûuk-chaai hòm phâa lǔaŋ [纏う・布・黄].
母は黄色衣を纏っている（僧侶に出家している）息子を見て、涙が出るほど喜んでいた。

78/W chán mâi châi dɛɛŋ, mâi châi lɯ̌aŋ [黄], chán sǐi khǎao câʔ.
私は赤 (赤色のシャツを着る人たちの味方) でもなく、黄（黄色のシャツを着ている人の味方）でもない。私は白（中立）だ。

例 77-78 では、lɯ̌aŋ（黄）という色からある特定の人たちを連想させる表現である。phâa lɯ̌aŋ（黄色衣）は僧侶のシンボルとして用いられている。また、phûak sɯ̂a lɯ̌aŋ（連中・服・黄＝黄色のシャツの連中）は「phanthamít prachaachon phɯ̂a prachaathíppatai (People's Alliance for Democracy, PAD)」という政治活動団体を呼ぶ言葉として用いられている。2005 年あたりから、当時の首相の辞任を求めるためにデモをする人たちが黄色のシャツを着ていたことからその名が由来する。黄色は国王の誕生曜日である月曜日の色なので、国王を支持するその組織のシンボルカラーとして使われている。それ以外に、リンパ液を意味する nám-lɯ̌aŋ [水・黄] という表現もある。

79/W bɔ̀ɔk lɛ́ɛo, kwàa ca lùt maa dâi mâi taai kɔ̂ khaaŋ lɯ̌aŋ [顎・黄].
言ったじゃない、帰ってこられるまで死ななかったとしても、khaaŋ lɯ̌aŋ（瀕死の重傷を負う）だろう、って。

lɯ̌aŋ（黄）は khaaŋ（顎）と共起し、khaaŋ lɯ̌aŋ（黄色の顎）となると、黄という色そのものではなく、手痛い目にあったことを意味する[12]。

(7) nám-ŋən（青）

英語の blue や日本語の「青」に相当するものと言えば、まずタイ人が思い浮かぶ言葉は nám-ŋən であろう。nám は水であり、ŋən は銀であるが、熟語である nám-ŋən が blue や「青」を表す言葉として用いられている理由はまだ不明である。 Berlin B. and Kay P. [1968] は英語の blue に当たるタイ語として fá・(空) を取り上げている [1968(1999):101] が、例 80-82 のように、blue を、タイ語では sǐi fáa(色・空＝空色)、sǐi krommathâa （色・krommathâa[13]＝濃紺 /navy blue)、または sǐi khraam（色・藍＝藍色 /indigo blue）と翻訳することもできる。

80/W Japanese schoolgirl wear blue skirt with white blouse.
nák-rian yǐŋ yîipùn sài sɯ̂a khǎao kàp kraprooŋ sǐi krommathâa.

81/W I want a blue pen.
phǒm yàak dâi pàakkaa sǐi nám-ŋən/sǐi fáa/sǐi krommathâa/sǐi khraam.

12 顎先は急所の一つで、そこを蹴られたりすると死なぬまでも、非常に痛い目にあう。昔 phlai(ショウガによく似ている植物) の黄色い根をこすりつけて治療した [冨田 1990:372]。
13 krommathâa は現在の大蔵省と外務省に相当する官庁であり、sǐi krommathâa はそこの職員の制服の色が濃紺だったところからこう呼ばれている。

82/W In the blue sky flows a big white cotton cloud,,,,.
mêek sǐi khǎao kɔ̂ɔn too lɔ̂ŋlɔ̂ɔi yùu bon thɔ́ɔŋ-fáa sǐi fáa/sǐi khraam.,,,,.

英語の blue をタイ語に正確に翻訳することは容易ではない。実際の色を見る必要がある場合もあれば、その色が言及されている状況に配慮する必要がある場合もある。例 80 は日本人の女子学生の制服を見たことがあるなら、その blue を sǐi fáa とは表現しないだろう。例 81 の、blue は、sǐi nám-ŋən、sǐi fáa、sǐi krommathâa、sǐi khraam のすべての表現に訳すことができるが、実際の色を見ないとどれが適当かは分からない。一方、例 82 は空のことなので、sǐi fáa または sǐi khraam となるだろう。また、日本語の「青信号」や「青痣」の青は、タイ語では「fai khǐao（信号・緑）」、「rɔɔi khǐao（痕・緑）」というように、青ではなく緑と表現される。

krommathâa と khraam はそれ自体が限定の色を指しているので、その色合いを修飾するためにさらなる形容詞を付けて表現されることはないし、曖昧にしたり、強調したりする表現も見られない。nám-ŋən と fáa には、それぞれの色の濃淡を表すのに nám-ŋən kɛ̀ɛ（濃い青）、nám-ŋən ʔɔ̀ɔn（薄い青）、nám-ŋən khêm（濃紺）、fáa kɛ̀ɛ（濃い空色）、fáa ʔɔ̀ɔn（薄い空色）、fáa khêm（濃くて深みのある空色）しかない。反復表現については、nám-ŋən nám-ŋən（青っぽい色）、fáa fáa（青っぽい色）という色合いの曖昧さ、そして ***nám-ŋə́n*** nám-ŋən（真っ青な色）、***fáa*** fáa（鮮やかな空色）という色合いの強調が見られる。また、nám-ŋən、krommathâa、khraam は場合により、「nám-ŋən nám-ŋən（青っぽい）」と表現されることも見られるが、fáa は「nám-ŋən nám-ŋən（青っぽい色）」と表現されることは見られない。このことから、タイ人にとっては、fáa は nám-ŋən とは別の色として認識していることと解釈できる。

「青」、「blue」、「nám-ŋən」の示す色が全く同じものではないことは、John Lyons が指摘している「ある特定の言語の色彩語は必ずしももう一つの言語の色彩語と一致するとは限らない」の一つの例であろう。

krommathâa、khraam、nám-ŋən、そして fáa には色そのものを表す以外の表現は見られない。sǐi（色）、dam（黒）、khǎao（白）、dɛɛŋ（赤）、khǐao（緑）、そして lǎan（黄）のように修飾語が後続し、それらの色の濃さや派手さ、または純粋さを強調することもなく、かつ、それらの色が修飾語として他の言葉と共起する表現も見られない。

(8) nám-taan（茶）

nám-taan（ヤシ砂糖）はサトウヤシから出来たタイの砂糖である。sǐi nám-taan はその砂糖の色から来ている。nám-taan には名詞（句）が後続し更なる限定的な色を表す表現は見られないが、その濃淡を表す表現には nám-taan mâi（色・砂糖・焦げる＝焦げ茶）、nám-taan kɛ̀ɛ（濃い茶）、nám-taan ʔɔ̀ɔn（薄い茶）、nám-taan khêm（濃くて深みがある茶）

という表現がある。また反復表現としては、nám-taan nám-taan（茶色っぽい）と曖昧に表現されたり、***nám-táan*** nám-taan（真っ茶色）と強調されたりするものが見られる。それ以外に、nám-taan（茶）という言葉からなる表現は見られない。

(9) mûaŋ（紫）

mûaŋ（紫）の濃淡を表す表現として、mûaŋ kɛ̀ɛ（濃い紫）、mûaŋ ʔɔ̀ɔn（薄い紫）、mûaŋ khêm（濃くて深みのある紫）が見られるし、mûaŋ mûaŋ（紫っぽい色）と曖昧な表現や、***múaŋ*** mûaŋ（真紫色）と強調の表現も見られるが、それ以外には、mûaŋ（紫）よりさらに限定的な色を表す表現や、mûaŋ（紫）が他の言葉と共起する表現などは見当たらない。

タイの伝統では、sǐi mûaŋ は mɛ̂ɛ mâai（夫と死別したり、離婚した女性）の色とされている。そのような考えは現在でも残っており、さらに、chaao sǐi mûaŋ（人たち・紫色＝紫色の人たち）という表現も出てきており、例 83 のように広く用いられるようになっている。この表現は同性愛者（通常男性同性愛者）を示す表現でもある。mɛ̂ɛ mâai と同じように、同性愛者も社会の中で孤独な存在と思われるところから彼らを表する色として紫が使用されているという説もあれば、男性のシンボルの色である青と女性のシンボルである赤が混ぜあわさって出来る紫と同じように、女性志向の男性や男性志向の女性、また異性ではなく同性を愛すること、つまり、それまでの既成概念としての男性でもなく、女性でもない第三の性、というところから、青だけでもなく赤だけでもない、青と赤から出来る紫とされたという説もある[14]。

83/W thâa rao sǎŋkèet dii dii ca phóp wâa khon kèŋ nai dâan tàaŋ tàaŋ nai sǎŋkhom rao thúk wan níi, sùan mâak lɛ́ɛo pen khon nai woŋkaan chaao sǐi mûaŋ nîi ʔeeŋ.
よく考えてみると、現在我々の社会の中のいろんな分野で活躍している人たちの多くは紫色の人たちであることに気がついた。

(10) chomphuu（ピンク）

chomphuu（ピンク）は例 84 にあるように、愛の色、幸せの色として用いられることが多い。また、kɛ̀ɛ（濃い）、ʔɔ̀ɔn（薄い）、khêm（濃くて深い）という言葉で修飾し表現されている場合と、chomphuu chomphuu（ピンクっぽい色）と曖昧に表現したり、***chomphúu*** chomphuu（真っピンク色）と強調したりすることがある。例 85 のように pɛ̌ɛn という言葉が後続して chomphuu pɛ̌ɛn（どピンク、すごいピンク）となり、ピンクの派手

14 タイの学校、公園など公共の場でのトイレの標識にもしばしば見られるように、色の使い分けによる男女の区別はない。男性用も女性用も同じ色が使われているのが一般的である。タイではもともと男性色、女性色が決められていなかった。そのため、青は男性の表象の色、そして赤が女性の表象の色、という考えは本来タイの社会にはなかったと考えられる。従って、chaao sǐi mûaŋ という表現の由来が男女のシンボル色から来たとするならば、おそらくは外来のものであり、元々タイの社会で発想されたこととは考え難い。

さを強調する。それ以外には、chomphuu（ピンク）よりさらに限定的な色を表す表現や chomphuu（ピンク）が他の言葉と共起する表現などは見当たらない。

84/W khon thîi yùu nai lôok sǐi chomphuu [世界・色・ピンク] khuu khon thîi kamlaŋ mii khwaam rák.
ピンク色の世界にいる人は恋愛をしている人である。

85/P khanŏm khéek sǐi chomphuu pɛ̌ɛn [ピンク・ピンクの状態を強調する語] yaŋŋán, chán mâi klâa kin rɔ̀ɔk, klua.
私は、あのようなすごいピンク色のケーキは怖い。食べる勇気がない。

(11) sôm（オレンジ）

英語の orange はタイ語に翻訳すれば、sǐi sôm（蜜柑色）、または sǐi sɛ̀ɛt[15]（橙色）となるが、日常生活では、sǐi sôm（蜜柑色）の方がよく用いられる。sǐi sɛ̀ɛt（橙色）は sǐi sɛ̀ɛt と表現される場合しかないのに対し、sǐi sôm（蜜柑色）には kɛ̀ɛ（濃い）、ʔɔ̀ɔn（薄い）という修飾語を付けたり、sǐi sôm sôm（オレンジっぽい色）と曖昧に表現したり、sǐi ***sóm*** sôm（真オレンジ色）と強調したりすることがある。また、下記の例 86 のように、pɛ́ɛt という語が後続して、sôm（オレンジ）の派手さを強調する表現もあるが、それ以外は、sôm（オレンジ）よりさらに限定的な色を表す表現や sôm（オレンジ）が他の言葉と共起する表現などは見当たらない。

86/W pâai sǐi sôm pɛ́ɛt [色・オレンジ・オレンジ色の状態を強調する語], duu lɛ́ɛo sɛ̀ɛp taa ciŋ ciŋ.
看板の色は sôm pɛ́ɛt（すごいオレンジ色）なので、見ると本当に目が痛くなる。

(12) thao（グレー）

sǐi thao（灰色）の thao は khîi thâo（灰）の色から来ている。thao ʔɔ̀ɔn（薄いグレー）、thao kɛ̀ɛ（濃いグレー）、thao khêm（濃くて深みのあるグレー）というグレーの濃淡を示す表現と、thao thao（グレーっぽい）、***tháo*** thao（すごいグレー）とグレーの色合いを曖昧に表現したり、強調したりするものがあるが、それ以外の表現は見当たらない。

3. タイの色彩語の表現法と意味

タイの基本色彩語は、それぞれの言葉が表わす具体的な色彩そのものの意味を持つ表現として用いられることは言うまでもないが、それ以外にも様々な表現法を通して生み出される色彩の種類や意味等があることをそれぞれの色彩別に示してきた。それらを表現法別

15 sôm はミカン科の果樹の総称であり、sɛ̀ɛt はベニノキ科の植物でありチョコレートやマーガリンの着色や布の染料に用いる [冨田 1990]。

にまとめると次のようになる。

(1) 基本色彩語から派生させる表現法

1.1. 色彩語に他の名詞（句）が後続する場合： sǐi（色）は、dam（黒）、khǎao（白）、dɛɛŋ（赤）、khǐao（緑）、lɯ̌aŋ（黄）、nám-ŋən（青）、nám-taan（茶）、mûaŋ（紫）、chomphuu（ピンク）、sôm（オレンジ）、thao（灰）という言葉が後続すると、その特定の色彩を示すことは言うまでもない。sǐi（色）だけで使われる場合、そこには dam（黒）・khǎao（白）を含めた色全体を表す場合と、dam（黒）・khǎao（白）との対照としての dam（黒）・khǎao（白）を含めない色全体を表す場合があり、どちらを意味するかは文脈によって決まる。例 1 では、まず dam（黒）と khǎao（白）が後続してその 2 色を特定し、その後に sǐi（色）が使われているので、この場合の sǐi（色）は dam（黒）・khǎao（白）の対照としてそれ以外の色を意味している。dɛɛŋ（赤）、khǐao（緑）、lɯ̌aŋ（黄）の 3 つの色彩語においては、他の名詞（句）が後続すると、それぞれの色彩におけるさらに限定的な色彩語が生み出される。dɛɛŋ（赤）には dɛɛŋ châat（朱の赤）や dɛɛŋ phlɤɤŋ（炎の赤））など 4 つの限定的な赤の色彩語が見られる。同じように、khǐao（緑）には、khǐao tɔɔŋ-ʔɔ̀ɔn（バナナの若葉緑）など 8 つ、そして、lɯ̌aŋ（黄）には lɯ̌aŋ dɔ̀ɔk-bùap（ヘチマの黄色）など 3 つ、の派生色が見られる。それらの後続語句はすべて具体的な物の名称や現象から来たと思われる。一方、dam（黒）、khǎao（白）、nám-ŋən（青）、nám-taan（茶）、mûaŋ（紫）、chomphuu（ピンク）、sôm（オレンジ）、thao（灰）にはこの種の表現は見られない。

1.2. 色彩語に修飾語が後続する場合： 色彩語に他の名詞（句）が後続する場合は、それぞれの色彩のさらなる限定的な色彩語が生み出されるのに対し、修飾語が後続する場合、それぞれの色彩の色合いをより限定的なものにする。色彩の総称である sǐi（色）には様々な明暗や濃淡などの色合いを表す修飾語が後続する。一方、特定の色彩語の場合は、濃淡を表す、ʔɔ̀ɔn（弱い / 柔らかい＝薄い）、kɛ̀ɛ（老いた / 熟する＝濃い）が後続する表現は dam（黒）と khǎao（白）以外のすべての色彩語に見られる。dam（黒）、khǎao（白）、lɯ̌aŋ（黄）、sôm（オレンジ）以外のすべての色彩語に khêm（濃い＝濃くて深みがある）が後続する表現が見られる。そして、dɛɛŋ（赤）には sòt（新鮮＝鮮やかな）、khǐao（緑）には sòt（新鮮＝鮮やかな）と mòn（憂鬱な＝くすんだ）という明暗を表す修飾語も後続する。一方、khǎao（白）には濃淡を表す修飾語が後続しないが、sǎi（透明である）、mòn（憂鬱な＝くすんだ）、sîit（青ざめた）、nuan （なめらかな）という明暗などの色合いを表すものが後続する。また、dam pɯ̌ɯ（真っ黒）、khǎao cúaʔ（真っ白）、dɛɛŋ chǎan（真っ赤）、dɛɛŋ cɛ́ɛt（真っ赤）、khǐao ʔɯ̌ɯ（真緑）、lɯ̌aŋ ʔɔ̌ɔi（真黄）、chomphuu pɛ̌ɛn（どピンク）、sôm pɛ́ɛt（すごいオレンジ）のように、dam（黒）、khǎao（白）、dɛɛŋ（赤）、khǐao（緑）、lɯ̌aŋ（黄）、chomphuu（ピンク）、sôm（オレンジ）には、日本語での「真～」または「すごい～」という色の濃さや派手さ、または純粋さが強調されるような表現も多く見られる。この種の表現は、dam（黒）には 9 つ、khǎao（白）には 6 つ、dɛɛŋ（赤）には 9 つ、

khĭao（緑）には 8 つ見られるので、2 つしか見られない lŭaŋ（黄）、そして 1 つしか見られない chomphuu（ピンク）と sôm（オレンジ）と比べるとかなり多いと言える。しかし、nám-ŋən（青）、nám-taan（茶）、mûaŋ（紫）、thao（灰）にはこの種の表現は見られない。

1.3. 反復表現 : すべての色彩語に、反復語として他の名詞（句）を修飾する表現が見られる。反復語における先行語と後続語が同じ声調であれば、日本語の「～っぽい」と訳すことができるように、色彩を曖昧に表現する[16]。しかし、先行語を高平調にすると「真～」となるように、色彩の濃さや派手さを強調する。

(2) 比喩法

2.1. 直喩法：例 41 のように物事の性質に極端な違いがある場合に、「khăao（白）と dam（黒）ほど違う」と比喩される。また、例 39 のように、khăao（白）は修飾語として、純粋さの比喩として用いられる。この種の表現法は khăao（白）と dam（黒）にしか見られない。

2.2. 隠喩法：色彩語はそれぞれの色から意味的な発展が見られ、色そのものを表すのではなく、ある特定の人、または状態、性質を暗示し、または象徴する言葉としても用いられる。この種の表現法は sĭi（色）、dam（黒）、khăao（白）、dɛɛŋ（赤）、khĭao（緑）、lŭaŋ（黄）、mûaŋ（紫）、そして、chomphuu（ピンク色）にしか見られない。sĭi（色）には mii sĭi（色がある）と mâi mii sĭi（色がない）といった対照的な表現がある。例 9-11 のように、軍人や警察といった権力のある人たちを指す khon mii sĭi（色がある人）に対して、khon mâi mii sĭi（色がない人）は、「一般の市民」、「権力のない人」を暗示する表現として用いられる。dam（黒）には、例 23-24、と例 40 のように、望まれない状態、汚れ、悪質、そして縁起が悪いといった負のイメージがある。それに対し、khăao（白）は例 38 と例 40 のように、清潔、純粋、正義の象徴とされ、dam（黒）とは対照的な含意を持つ。dɛɛŋ（赤）は、例 53-59 のように、ある特定の状態、感情、身体の特徴、政治的な理念を暗示し、象徴する。khĭao（緑）は例 70-72 のように、怒りの感情、そして痛みや寒さによって引き起こされた感覚や表情を連想させる。lŭaŋ（黄）は例 77-78 のように、僧侶やある政治的な理念を持っている団体を象徴する。mûaŋ （紫）は例 83 のように孤独や寂しさを象徴する。そして、chomphuu（ピンク）は幸せな感情を連想させる。

(3) 慣用的な表現法

色彩語は単独または他の語句と共起すると、色彩そのものを示すのではなく、ある特定の意味を表す慣用句となる場合がある。この種の表現法は sĭi（色）、dam（黒）、khăao（白）、

16 同じ声調でも、先行語が長母音の場合、短母音で発音されることがしばしば見受けられる。たとえば、dɛɛŋ（赤）の場合、「dɛɛŋ dɛɛŋ（赤っぽい）」のところ、先行語の長母音の dɛɛŋ が短母音の dɛŋ となったりする。dɛɛŋ（赤）以外では、sĭi（色）が「sĭi sĭi /**sĭ** sĭi（どちらかと言えば色がある方）」、khăao（白）が「khăao khăao/**khăo** khăao（白っぽい）」、そして fáa（空）が「fáa fáa/**fá fáa**（青っぽい）」となる。

dɛɛŋ（赤）、khǐao（緑）そして、lǔaŋ（黄）には見られるが、nám-ŋən（青）、nám-taan（茶）、mûaŋ（紫）、chomphuu（ピンク）、sôm（オレンジ）、そして thao（灰）には見られない。sǐi（色）は、例 12 の rái sǐi-săn（色がない）と例 13 の pâai sǐi（悪いと決めつける）に見られるように、活気や華やかさを含意する一方、悪質なものも含意する。dam（黒）は、例 25の dam-mûut（明らかではない）、例 26 の cai-dam（残酷である）、そして例 27 の nâa dam khrâmkhrîat（深刻である）のように、不透明な状態、残酷な性格、暗い雰囲気という意味合いとしてよく用いられている。khǎao（白）は、例 42 の taa khǎao（臆病である）、そして例 43 の yók thoŋ khǎao（降伏する）のように、弱さを含意する。dɛɛŋ（赤）は、動詞として単独で用いられ、「ばれる」の意味合いを持つ例 60、そして、「はっきりと決着する」という意味合いを持つ例 61 の hěn dam hěn dɛɛŋ（白黒をつける）のように、内意、密意、内密を含意する dam（黒）に対し、表出、明示の意味合いを持ったり、例 63-64 のように身の不自由さや精神的な限界といった望ましくない状態を表したりする場合もあるし、例 62 の boo dɛɛŋ（最高級）のように特に優れた様を意味するものもあり、幅広い表現を持つ。khǐao（緑）は、例 73 の fai khǐao（認める）は妨げずに自由に行かせること、例 74-75 の tòk khǐao（若い女性を騙す）に見られる khǐao（緑）は若さを象徴するが、利益を得るために何らかの餌を与えておくような行動をとるということにも意味的展開が見られる。そして、lǔaŋ（黄）は、例 79 の khaaŋ lǔaŋ（瀕死の重傷を負う）のように、汚れているや痛ましい状態を表わすように、あまり望ましくない状態を含意する。

上記のそれぞれの表現法において違った内容の語句が、今回の資料の中にどれぐらいの数で見られるかを色彩語別に表にまとめると以下の通りとなる。

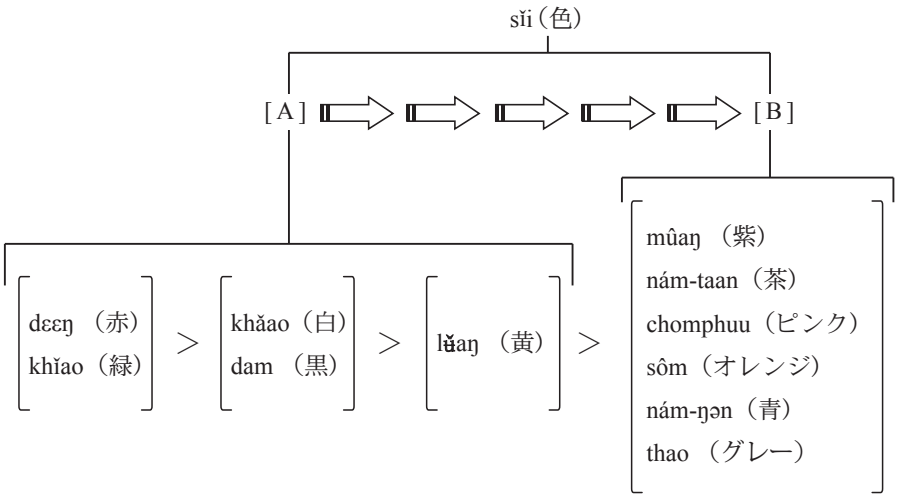
表現法／色彩語	色彩の種類および色合いを持たせる表現法					比喩法		慣用表現
	色彩語＋名詞(句)	色彩語＋修飾語		反復語		直喩	隠喩	
		明暗／濃淡などの色合い	濃さ／派手／純粋さの強調	曖昧化する	強調する			
sǐi 色	13	13	5	1	1	×	1	2
dam 黒	×	×	9	1	1	1	3	3
khǎao 白	×	4	6	1	1	2	2	2
dɛɛŋ 赤	4	5	9	1	1	×	7	5
khǐao 緑	5	5	8	1	1	×	4	2
lǎaŋ 黄	3	2	2	1	1	×	3	1
nám-ŋən 青	×	3	×	1	1	×	×	×
nám-taan 茶	×	4	×	1	1	×	×	×
mûaŋ 紫	×	3	×	1	1	×	2	×
chomphuu ピンク	×	3	1	1	1	×	×	×
sôm オレンジ	×	2	1	1	1	×	×	×
thao 灰	×	3	×	1	1	×	×	×

4. 色彩語の表現法の特徴およびそこに見るタイ人の色彩に対する認識と意識

タイの色彩語表現法およびそれらの表現法により生み出される色彩の意味的な特徴およびそこに見るタイ人の色彩に対する認識と意識は次のように考えられる。

タイの色彩語の表現には、基本色彩語から様々な表現法を通して生み出された色彩語の語（句）が多く見られることが確認された。特に、すべての色彩語に見られる、反復語表現や声調の特徴を通して生み出された色彩表現がその基本の色彩語が示し表わす色より曖昧になったり、意味領域が広くなったり、また逆に色合いの程度が強調されたりするところは声調が意味に影響を与えるタイ語の特徴的な表現法であると言える。さらに、特定の名詞（句）や修飾語と共起することで、それぞれの色彩語が表わす基本の色から、様々な限定的色彩、また、それぞれに違った色合いそして派手さを持つ多種多様な色彩表現が生み出される。タイ人は、色彩を単純にその色彩語が表わす色そのものだけではなく、同じ色彩の明暗や濃淡などの色合いの微妙な違いをも常に意識し言葉で表現するということも明らかである。一方、基本色彩語は名詞、動詞、または修飾語として単独で、さらに他の語句と共起して比喩法や慣用的な表現法で用いられたりすることにより、色そのものではなく、ある特定の人における身体的・精神的状態や性質、世代、倫理、理念、また、ある出来事における状態を連想させる。その中には、boo dɛɛŋ（最高級）や fai khǐao（妨げず自由に行かせる）のようなプラス的な状態や評価だと思われる表現も若干見られるが、それよりも、望ましくないマイナス的なものが圧倒的に多く見られる。タイ人は、性質、精神、理念、そして倫理上、一般的であり、正常な状態の場合は「色がない」と意識し、特別であり異常な、そして望ましくない状態、性質、精神、理念などには、「色がある」または「ある特定の色を持っている」といったような意識を持っていると解釈できるだろう。これらの事例から、タイ人が色彩全般に対して強い関心を持っていることが改めて確認できた。そして、それらの表現法およびそれぞれの表現法を通して生み出される限定的な色彩、明暗や濃淡などの色合いの違い、そして象徴や含意は主に、sǐi（色）、dam（黒）、khǎao（白）、dɛɛŋ（赤）、khǐao（緑）、そして lɯ̌aŋ（黄）に見られるが、その中では色全般を 表すsǐiやdɛɛŋ（赤）とkhǐao（緑）が最も多く見られる。lɯ̌aŋ（黄）にも比較的多く見られるが、sǐi（色）、dɛɛŋ（赤）、khǐao（緑）、dam（黒）、khǎao（白）ほどではない。nám-ŋən（青）、nám-taan（茶）、mûaŋ（紫）、chomphuu（ピンク）、sôm（オレンジ）、そして thao（灰）にはわずかに見られ、そしてその中で最も少ないのは nám-ŋən（青）、sôm（オレンジ）、そして thao（灰）の 3 色である。Berlin B. and Kay P. [1968] は、色彩に対する認識は様々な民族や社会によって相違があり、段階的な展開が見られると論じたが、このことをタイ人の場合で推論すると、色彩に対するタイ人の認識は 2 段階に大きく分けられる。ここでは dɛɛŋ（赤）、khǐao（緑）、khǎao（白）、dam（黒）、そして lɯ̌aŋ（黄）の色彩語表現が多く見られる色を A グループとし、mûaŋ（紫）、nám-taan（茶）、chomphuu（ピンク）、sôm（オレンジ）、nám-ŋən（青）、そして thao（灰）の色彩表現の少ない色を B グループとする。色彩に対する認識は A から B へと広がってきたものと考えられる。そして、色彩語表現

の数が色彩に対する意識や関心の深さを表すと考えると、色彩表現が最も多く見られる dɛɛŋ（赤）と khǐao（緑）が最も深く、その次は khǎao（白）と dam（黒）となり、さらに lǎaŋ（黄）、そして mûaŋ（紫）、nám-taan（茶）、chomphuu（ピンク）、sôm（オレンジ）、nám-ŋən（青）、thao（灰）へと浅くなると考えられる。このことを表にまとめると以下のとおりであろう。



[⇨はAグループ（色彩語表現が多く見られる色）からBグループ（色彩語表現が少ない）へ、色彩に対する認識の広がりの過程を示す。＞は色彩に対する意識や関心の深さにおける大小関係を示す。]

上記の言語表現に見られる色彩に対するタイ人の感覚、および認識の展開や意識は、生活環境だけではなく、特定の時代の状況や動き、日常生活における事情、人々の理念や考えなどにも影響を受けることも明白である。たとえば、dɛɛŋ（赤）について言えば、1960-1970 年代の間であれば、「共産主義」の象徴として意識されるだろうが、2009 年現在では、まず思い浮かぶのは DADD という政治活動の団体のことであろう。そして、伝統的には僧侶の象徴として意識されてきた lǎaŋ （黄）も 2006-2007 年の間は国王、そして、2008 年からは PAD という政治活動の団体の象徴ともなっている。また、元来、夫と死別、または離婚した女性を象徴したが、現在、タイの社会で様々な分野で活躍するのが目立つようになっている男性同性愛者の象徴としても意識されるようになっている mûaŋ （紫）にもそのような意識の変遷が見られる。よって、今後、これらの意識にはさらなる変化が起こりえるとも言えるだろう。

5. 残された課題

本稿は、sǐi（色）と特定の色彩を表す言葉、およびそれらの言葉と共起する表現を取り上げ考察したが、考察の対象は sǐi（色）と特定の色彩を表す言葉に重点が置かれていたが、

色彩語を修飾したり、共起する言葉の特徴も検討すれば、色彩語における表現の意味的な特徴に新たな解釈を見いだすことができるかもしれない。たとえば、一つの色彩語に複数の種類の修飾語が後続する場合は、それぞれの修飾語の間に含意の相違があるかどうか、あるとすればどのようなものであるのか、などなど。また、nám-ŋən（青）にはまだ不明な点が残っている。タイ語の基本色彩語は nám-taan（茶）と nám-ŋən 以外は、単語彙素（monolexeme）の言葉である。しかし、nám-taan は元来「砂糖」という意味のある語から来たので、語源が明白である。それに対し、nám-ŋən［水・銀］は「青」を表す語として、その語源にまだ不明な点が残されている。これらの問題を今後の課題として、引き続きタイ人の色彩に対する認識と意識を考察していきたい。

参考文献

アンヌ・ヴァリション , 2005, 『色 COLORS: 世界の染料・顔料・画材　民族の色と文化史』, 河村真紀子・木村高子（訳）, 2009, 株式会社マール社 , 東京 .

風見明 , 1997, 『色の文化誌』, 工業調査会 , 東京 .

武井邦彦 , 1989, 「色彩と形態と言語」, 『言語』 18, No.11, 大修館書店 , 東京 , pp.38-45.

冨田竹二郎 , 1990, 『タイ日辞典』, 養徳社 , 天理 .

宮本マラシー , 2009, 「クレオール文化・伝統織物・女性」, 『着衣する身体の政治学：周縁化される「伝統」の共鳴』, 武田佐智子・宮原曉（編）, 科学研究費補助金報告書基盤研究（A）「着衣する身体と女性の周縁化」（研究代表：武田佐智子）報告書 , pp.42-46.

_____, 1996,『タイ語の言語表現』, 大阪外国語大学 , 大阪 .

_____ と増田新 ,2002,『CHAIYO: タイ語の文法と会話』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 , 東京 .

Berlin, Brent and Kay, Paul, 1968(paperback ed.,1999), *Basic Color Terms:Their Universality and Evolution, CSLI* Publications, California.

Gage, John, 1995, “Colour in Culture”, in Lamb, Trevor and Bourriau, Janine(ed.), *Colour: Art & Science,* Cambridge University Press, Cambridge, pp.175-193.

http://th.wikipedia.org/wiki/แนวร่วมประธิปไตยต่อต้านเผด็จการแห่งชาติ_แดงทั้งแผ่นดิน

http://th.wikipedia.org/wiki/พันธมิตรประชาชนเพื่อประชาธิปไตย

Lyons, John, 1995, “Colour in Language”, in Lamb, Trevor and Bourriau, Janine(ed.), *Colour: Art & Science,* Cambridge University Press, Cambridge, pp.194-224.

Thongkum, Theraphan L., 1992, *Colour Terms in Yao(Mien)*, Chulalongkorn University, Bangkok.

ราชบัณฑิตยสถาน, 2003, *พจนานุกรมฉบับราชบัณฑิตยสถานพ.ศ.2542*, นานมีพลับบลิชชิ่ง, กรุงเทพฯ.

色彩語の出所である web:

1. http://blog.eduzones.com/applezavip/21690
2. http://blog.eduzones.com/applezavip/21718
3. http://board.dserver.org/d/d2bstory/00002445.html
4. http://board.palungjit.com/f2/-166135.html
5. http://dek-d.com/board/view.php?id=917448

6. http://ecurriculum.mv.ac.th/library2/clinic/thaimental/Question.asp-GID=29251.htm
7. http://board.siamphone.com/viewtopic.php?p=862095&sid=2afd0c34421d389f986fa7787fac445d
8. http://dara.hunsa.com/detail.php?id=16895
9. http://guru.sanook.com/answer/question
10. http://hilight.kapook.com/view/29796
11. http://news.mjob.in.th/world/cat12/news17296/
12. http://play.kapook.com/vdo/show-22949
13. http://photo.lannaphotoclub.com/index.php?topic=6415.15
14. http://qwer.dek-d.com/board/view.php?id=1007638
15. http://shopping.sanook.com/buy/buy_detail.php?nitemID=1885149
16. http://thaiinsider.info/2009news/the-news/politics/1919-2009-05-08-09-33-07
17. http://th.answers.yahoo.com/question/index?qid=20090206203055AA4RC8I
18. http://th.newspeg.com/-29326897.html
19. http://topicstock.pantip.com/rajdumnern/topicstock/2009/04/P7742195/P7742195.html
20. http://webboard.news.sanook.com/forum/?topic=2571906
21. http://women.sanook.com/pets/breed/cats_44521.php
22. http://www.212cafe.com/freeguestbook/viewcomment.php?gID=640082&user=kanya
23. http://www.bloggerlover.com/
24. http://www.bookmarkdigg.com
25. http://www.dailynews.co.th/web/html/popup_news/Default.aspx?Newsid=196600&NewsType=1&Template=1
26. http://www.exteen.com/tag/
27. http://www.globalfashionreport.com/?l=th&a=33209
28. http://www.google.co.jp/search?hl=ja&q=
29. http://www.goojaba.com/index.php?topic=1208.0
30. http://www.gosam.com/news/news/html/0004848.html
31. http://www.jeban.com/viewtopic.php?t=16612
32. http://www.jeban.com/viewtopic.php?t=21747
33. http://www.kroobannok.com/view.php?article_id=10348
34. http://www.matichon.co.th/news_detail.php?newsid=1244463228&grpid=10&catid=17
35. http://www.oknation.net/blog/print.php?id=64319
36. http://www.pantip.com/cafe/gallery/topic/G2619935/G2619935.html
37. http://www.pantip.com/cafe/lumpini/topic/L7838886/L7838886.html
38. http://www.pantown.com/board.php?id=7&area=4&name=board1&topic=191&action=view
39. http://www.pharm.su.ac.th/thai/organizations/dis/webboards/showQAnswer.asp?qNo=1538
40. http://www.raorakpar.org/raorakparboard/index.php?topic=416.0
41. http://www.romanticgals.com/modules.php?name=Forums&file=viewtopic&t=2034
42. http://www.ryt9.com/s/ryt9m/155635/
43. http://www.siamdara.com/hotnews/00001856.html
44. http://www.siamzone.com/board/view.php?sid=796590
45. http://www.siamzone.com/movie/news/index.php?id=2653

46. http://www.skph.org/modules.php?name=Forums&file=viewtopic&p=4
47. http://www.sritown.com/webboard/answer_view.php?id_top=4272&mode=3
48. http://www.thaiclinic.com/cgi-bin/wb_xp/YaBB.pl?board=eye;action=display;num=1239946383
49. http://www.thaidphoto.com/forums/archive/index.php?t-3747.html
50. http://www.vcharkarn.com/vblog/34142
51. http://www.vcharkarn.com/vblog/41755
52. http://www.yenta4.com/webboard/2/1130986.html

（2009. 10. 12　受理）